

令和３年度長野市スポーツ推進審議会（第２回）会議録

日 時	令和３年７月２日（金） 午前９時半～１１時半
会 場	長野市役所第二庁舎 １０階 講堂
出席者	委員８名（欠席委員４名）、オブザーバー１名、事務局１４名
次 第	１ 開 会 ２ あいさつ ３ 議 事 （１）第三次長野市スポーツ推進計画策定における現況と課題について 資料１ （２）その他 ４ そ の 他 ５ 閉 会
議 事	（議事進行 堀江会長） <u>議事(1)：第三次長野市スポーツ推進計画策定における現況と課題について</u> 事務局より資料１の１頁 ・施策 1-1 健康寿命の延伸に寄与する生涯スポーツの推進について説明。以下質疑応答。 A委員：長野市は全国的にも運動している人が多い。運動指導の仕事をしていて、運動が必要と思っている人はけっこういる。その中で継続的に運動している人は３％くらいしかいない。ここから更に、参加する人数を上げるのは大変だと思う。 B委員：甥や姪は、友達と集まってもゲームばかりやっていて外で遊ばない。興味付けや体を動かして遊ぶ機会を無理矢理にでも作っていただきたい。 C委員：スポーツ施設について「予約システムの充実」と挙げられているが、困っているのは年配の方のソフトテニスのクラブでパソコンができない方が多く、今までは紙形式でも受け付けてもらっていたのが、スマホが普及してから拒絶されて、パソコンでしかできない状況になっている。それでやめたクラブもある。年寄りの場合は紙ベースでも受け付けてもらいたい。 事務局：窓口にお見えいただければ、対応はさせていただいている。 C委員：安茂里支所では、紙ベースで申込書を出すと支所で入力してくれたが、

	一切受け付けてもらえなくなった。結局、パソコンができる人がいないとクラブをやめてしまうということが1件あった。茶臼山は紙ベースで受け付けている。 事務局 : そういったご意見もあれば考えていきたい。 C委員 : これからどんどん高齢化していくので、ぜひ考えてもらいたい。 D委員 : 私が小さい頃に一流の選手の試合を観て、すごく印象に残ってそのスポーツをやってみたいと思うこともあったので、長野市出身のプロ選手、ウォリアーズの三ツ井選手やジャイアンツの直江選手のような長野市出身の人を巻き込んで、イベント等で「スポーツはすごい！」と見せれば、子供達も応援したいと思う。そういう機会を作ってもらいたい。 E委員 : 仕事柄、長野市の色々な計画に携わっている。総じて言えることは、現況と課題の齟齬をどう埋めるか、現実と目標の乖離をどういう手法をもってできるだけ近似値に近い形で実行していくかが、今回のスポーツ推進計画の在りようと全く同じだと思う。どうしても現実の数値と目標の数値の乖離が激しい。その原因がどこにあるかを見極めておかないといけない。市民の健康意識が高いという前提の中で、更にスポーツに参加するための手段をどう発信していくかをテーマリングしておかないと、なかなか数値が接近してこない。今の時代、ただ単に長寿を延伸するという時代ではない。健康寿命の延伸をどう図るか、いかに自立した生活を長くできるかという課題に、行政もそうだが市民一人ひとりが向き合う時代になってきている。その中で、スポーツは有効な手段であると考え。そのヒントとして、スポーツと触れ合う機会、これがアンケート調査などのデータをみると、機会に恵まれない部分である。何が原因かという、1つはスポーツに触れ合う機会を発信するメディアや広報などの媒体の使い方に検討の余地があるのではないかな。もう1つは、スポーツ施設の適材適所の配置ができているのか。社会体育館の使われ方をみていると、混んでいるところは予約も取れない。空いているところは容易に前日もしくは当日予約がとれる。こういう意味では、人口分布との関連性や年齢層の状況も分析しておかなければならない。スポーツ施設の量については、全国でも稀有な数量を持っている市なので問題ない。極めて高齢者が多くなる時代の中で、徒歩で行ける施設も1つの考えようであるし、運転をしていかなければいけないような施設も考えると、適材適所の配置に対しての考え方をもう一度検討してみても良いと思う。
--	---

	F 委員 : 資料の「今後の方向性」のところに、「子供達には、遊びなどからスポーツへの興味を引き出す」とあるが、その方向性はとても大事だと思う。これまでの市の施策は大事な部分を行っていただいたので、引き続きそれが充実できるようにしていくことが地道なところだと思う。私は小学校で教員をやっているが、どの学校でも「体力の向上」は学校目標に入れて、それぞれの学校で工夫をされている。中学の部活動もそうだが、地域におけるスポーツ活動で私も社会体育に関わったことがあるが、子供達がそこでやっている姿をみると、この子達が10年後、20年後、スポーツに親しんでくれていたらいいと思う。20歳以上の方々からアンケートをとっているので、子供達がスポーツに親しむ生活が引き続き行われていくことが大事だと思う。令和2年度の市の施策を縮小することなく、学校や地域のニーズに応じて行っていただきたい。最後に、先程「子供がなかなか遊ばない」という話があった。小学校の子供を見ると、ゲームは非常に大きなところで、メディアとの付き合い方は学校教育の中で大切になっている。なぜ、子供達が遊びたくなるかを私もずっと考えているところである。子供達を取り巻く環境をどう整えていくか。環境を分けて考えると、まず遊具や遊ぶところが面白いという遊びたくなる環境がある。次に、環境は人もある。学校や子供に関わっていく大人の環境がある。3つ目として、「事（こと）」もある。中学の部活動や有名な選手に会いたいというイベント的なところの3つをバランス良く組み合わせていくことが大事だと思う。 副会長 : 機会の醸成ということで、総合型地域スポーツクラブの役割がすごく重要になってくると思う。市民アンケートにもあったように、総合型地域スポーツクラブというものを知らない方が大勢いるようで、情報発信をもっと積極的にやっていただきたいということと、地域を別にした活動なので、スポーツ推進員と総合型地域スポーツクラブが連携して何か活動ができたらいいいと思う。地域でのスポーツ大会等もあるが、高齢化で今までやってきた種目ができない。参加人数が集まらず、スポーツ大会も減少傾向にある。スポーツ推進員の役割は大きいと思うが、企画をするのは住民自治協議会が主体なので、スポーツ推進員独自でやっていくのは難しい。スポーツ推進員でそういった活動が年1回くらいでもいいのでできたら良いと思う。 会 長 : 時代背景が変わっている現状の中で、年代別の括りが変わってきている。子供、学生、勤労者、高齢者。これによって、スポーツのニーズや取り組み方、いろんな環境が変わってきている。それをフレキシブルに対応する
--	---

	のは難しいと思うが、そういった形の考え方をしてほしい。先程から意見が出ているが、子供の世界について感じているのは、いろんなスポーツ施設やスポーツの場があるが、一昨年の災害、今のコロナ禍によって、子供達のスポーツに関わる機会や意識が変わってきている。スポーツ少年団の会員数が減り、民間のクラブに聞いても活動を自粛するとか運動をやめてしまう人が多いという声も聞いている。もう一つは、部活の制限も出てきている。子供の年代については、部活の問題や今の環境の問題も取り入れて、スポーツに親しめる環境を考えていただきたい。高齢者については、気軽に楽しめることや近隣で活動できるということが一番の論点になる。簡単にできる仕組みをどう作るのが大事だと思う。勤労者についてはどうしても時間制約がある。スポーツをする機会は週末か勤務外となるため、制約がある中でどうスポーツを楽しめる環境を提供できるかだと思う。これを考えることによって、より具体的な施策が出てくると思う。 事務局：世代に応じたスポーツができるような仕組み作りが大切と思っている。先程、子供達の運動・スポーツの話があった。中学生についても、部活動の在り方がこれから変わっていく。そういったものにも対応しながら、あらゆる世代のニーズに応えるような体制を作っていきたい。E委員の意見にもあったが、スポーツをどう発信していくかはアンケートにもあり、委員の皆様からも意見をいただいているため、今後大切な要素になっていくと考えている。高齢者の運動についても、A委員に大変ご尽力いただいております、「体力健康チェックキャラバン」という事業を始めて今年で3年目になる。参加者の皆様にも認識されてきた。今後どうしていくかを新しい計画にも盛り込んでいきたい。 事務局より資料1の2頁～3頁 ・施策 1-2 地域における自主的なスポーツ活動の促進 ・施策 1-3 障害者のスポーツ参加の機会拡大 ・施策 1-4 競技力の向上と底辺の拡大 ・施策 1-5 スポーツ施設の計画的な整備・改修及び適正な管理運営について説明。以下質疑応答。 F委員：総合型地域スポーツクラブの会員数が令和2年で減ってきている。今までやっていた方がなぜやめてしまったのか、声などは把握しているか。 事務局①：クラブの会員数の減少については、1つは台風・コロナの影響があると考えている。また、クラブ会員の高齢化、アンケートにもあったがスポ
--	---

	ーツ・運動に対して「個人で自由に」、「思い立った時に気軽に」というニーズが高くなっている。そういったところがクラブの会員数の減少につながっていると考えている。 事務局②：補足をすると、身近なところでスポーツをしている数値が上がってきている。具体的にいうとウォーキング、体操が挙げられる。傾向として、集団に入って運動をするとか、施設へ行って何か運動をするというよりは、身近で気軽に一人でもできる、一人でやることを望んでいるニーズが向上しているということが数字から読み取れる。その代わりに、総合型の皆さんが長野市と連携して実施するスポーツイベントについては、会員を含めていろんな方が参加していただくような傾向が見えてきている。会員になって運動を楽しむというよりは、個々で楽しむことが増えてきていると感じ取れる。 E 委員：総合型地域スポーツクラブの会員数が年々減少しているというデータについて、令和2、3年は台風やコロナであまり数字は参考にならない。令和元年に照準を合わせると、平成27年から令和元年に対して、約8%の会員数が減っている。アンケート結果の中で、なぜ減るかの問題に対し、先程言ったように「個人で自由に」とか「思い立った時に気軽に実施」というようなところが主流を占めているとはいうものの、基本的には総合型地域スポーツクラブの認知度が低い、それが一番大きいと思う。言葉も内容も知っているのが7.1%、これが大変低い数字なので、このレベルから改善していかないと総合型地域スポーツクラブの会員数を回復していくことは難しいのが一つ。また、先程から出ていたように、成果を試す機会を増やす。例えばバレーボールやバスケットボール、野球でもいいが、長野市長杯とか、いわゆるチャンピオンシップの機会を増やししながら、自分の体力向上はどの程度までできているのか、成果を試す機会を増やすことも今後は大切になってくると思う。幼少期にスポーツに触れ合う機会を醸成できるか、ここが総合型地域スポーツクラブの根幹をしっかりとさせる大きな要素になってくる。私も実は男の子が4人いて、水泳、テニス、下の2人はバスケをやっている。ミニバスからスタートして大学でもやっているが、幼少期からスポーツに触れ合う機会の醸成は、総合型地域スポーツクラブにどのくらい誘いきれるかが大きな要素になってくる。また、国体長野県勢における長野市出場者の占有率について、一言でいうと情けない。県都である長野市から12～13%しか出てきていない。長野県の77市町村の人口比率でいうと、だいたい18%くらいが長野市から国体出場選手や世界に羽ばたくような有名選手が出てもおかしくない。県内19市の人口比率でいくと、23%
--	---

	くらい国体出場選手が長野市から出てもおかしくない。それが約半分、12～13%くらいで低迷していることの何が問題なのか、これをしっかり見極めるべきである。一つは、目安・目標物として高校の大会の実績が少ない。中学まで実力をつけてきた子が全国の有名校に進学し、県外に出ていかざるを得ない。もしくは自分の技術力を向上するために県外の有名校に進学をする人もいる。なんとか県内に思い留まるためには、高校の大会の実績を増やしていかないと初期の目標は達成できない。 D委員：スポーツの組織に入るハードルが高い。女性の場合は仲間意識があって一緒にやることが多いが、男性の場合は個人で楽しみたいという方が多い。数字には表れていないが、個人的にジムに行っている方がけっこういる。数字を増やすことだけでいうと厳しいかもしれないが、スポーツという広い意味で言えばそんなに少なくないと思う。障害者スポーツについては、スポーツに携わっていながら私も1回だけしか大会に参加していない。参加の機会が少ないので、どうやって人を参加させていくかが一番の課題だと思う。 C委員：ソフトテニスをやっていて、月曜日は裾花体育館で活動している。昼間は高齢者で一つのクラブを作っていて、夜は勤労者・大学生・高校生でやっている。施設を確保するのが一番大変で、それをやってもらう人がなかなかいない。現状では私1人で昼夜全てやっている。夜の場合、今までは安茂里テニスクラブで会費もとってちゃんと運営していた。それが大変なので同好会形式にして、世話は全部私がやるがいつでも誰でも来ていいとしたところ、勤労者の会員が増えた。自由にできると知らず機会があれば、会員も増えていく。 B委員：総合型の認知度が低いところは大問題で、これから認知度を上げて興味を持ってもらうようにしたい。(2) 2-1 のaに書いてある「総合型地域スポーツクラブの創設・運営に対する支援」についてはぜひお願いしたい。どこの総合型も運営資金の問題を抱えている。会費を上げる訳にはいかないし、人数が少ないと活動も制限される。もしできるなら支援に力を入れてほしい。また、障害者のスポーツに関して、今朝の「あさイチ」をご覧になった方はいるか。「ゆるスポーツ」というものを取り上げており、ハードなスポーツではなく、いろんな工夫をして障害者も健常者も一緒に楽しむことを推奨している人が出ていた。ぜひ市の方でも研究していただきたい。そうすると、障害者の人とも関わる機会が増える。先日、サンアップルでバドミントンの大会を知的障害者の方と一緒にやったが、皆さん楽しそうにやっていて、そんな機会もできたらと思
--	--

	う。
A委員	：今の部分ではないが、施策1の部分で聞きたいことがある。この中で、週1回以上何でもいいので運動している人はどのくらいいるか。審議会の方はスポーツに関わっていると思うが、参加していない人がどうすれば参加するか、ぜひ意見として取り入れてほしい。スポーツをしなかった理由は「特にない」という人が4割、「機会があれば」という人が4割くらいいるので、例えば市役所職員の中で参加していない人をどうやれば参加するかアンケートをとってもらいたい。やっている側の人間からすると、やればいいと思ってしまう。やっていない人は何か理由があってやらなかったりすると思う。そういう方の意見を聞いて参考にしていきたい。
事務局	：総合型地域スポーツクラブの認知度が低いことについては、先程事務局から説明させていただいた中に、長野市でもスポーツフェスティバルというようなスポーツイベントがあるので、そういった中で連携をさせていただいている。また、長野市の教室等でクラブと連携して教室を開講している。認知度を高めるために、効果的なことを検討していきたい。国体については、たしかに人口比率からするとまだまだ伸びる余地はあると思うが、チームスポーツだとなかなか指標を達成するのが難しい。引き続き、スポーツ協会と連携して競技スポーツの競技力向上を図っていきたい。また、2028年は国民スポーツ大会の開催が決まっているため、それに向けて取り組んでいきたい。
副会長	：障害者のスポーツ参加の機会拡大ということで、市でパラスポーツデーをやっていて、とても良い取り組みだと思う。今年はパラリンピックで障害者スポーツは注目を浴びる。障害者スポーツというと一般の方は構えてしまって、普通のスポーツとは少し別のものという認識がある。パラスポーツの中にもボッチャとか、健常者も一緒にできるスポーツや、アイマスクを健常者がしてハンデをつけて一緒にできる種目もあるので、もっとそういうスポーツの紹介、地域での講習会や大会、体験会などの計画を進めていけたら良いと思う。また、スポーツ施設の料金体系の検討について、中学校の部活が民間で担っていく形になっていくと思う。私がやっている総合型地域スポーツクラブで中学生の部活支援をしているが、中学校は夜間照明が無い。結局、中学校ではなく他の施設に行って練習している。北部スポーツレクリエーションパークや東和田運動公園を使用する場合、料金がかかる。毎週のように使用するので、けっこうな額になる。今のところ、保護者の方が受益者負担ということで

	賄っているが、中学校の部活に関しては使用料の減免措置等もやっていただけると、今後民間でも支援しやすくなる。 会 長 : 総合型地域スポーツクラブ、障害者スポーツ、国体における出場者を増やしていくことを総括する中で、共通するものが1つある。それは、関わる人がいかに増えていくかである。先程も施設の予約を取る方がいないという話があったが、国体を強化するには良い指導者が出てこないといけない。スポーツ推進員の話もあったが、地域のスポーツは父兄の人が面倒をみる機会が多い。自分の子供が卒業すると同時にやめてしまう方が多い。スポーツが好きでやりたい方が多いが、子供が卒業して関わる機会がない。そういう人をうまくつなぎとめて、地域の指導者などで関わっていただく。そういう方が増えていくと総合型地域スポーツクラブでもリーダーの方が出てくるし、良い指導者であれば国体を目指すチームの指導者になる。障害者スポーツも介添者がしっかりしていないと安心してスポーツを楽しめない環境がある。人材の発掘を行政としても考えていただけるとありがたい。もう1点、先程の環境の問題の中で、屋外施設については照明がほとんど付いていない。松本市はほとんどの小中学校の照明が付いており、一般開放されている。これから小中学校で照明をつけるのは難しいが、環境の整備をしていかないとスポーツをする人は体育館に集中して、体育館がとれない状況になる。屋外スポーツも屋内で練習する状況になる。ぜひ長期的に考えてもらいたい。もう1つは、部活の学校開放を進めていただきたい。総合型スポーツクラブと地域の小中学校との連携は必要になってくる。クラブが施設を管理できる方向に行けば、地域の方々と一緒になって管理ができる。簡単にいくものではないので、ぜひ長期的な視点で考えてもらいたい。 事務局より資料1の4頁～5頁 ・施策 2-1 国際大会や全国大会などの誘致・開催 ・施策 2-2 地域密着型プロスポーツチームとの連携 について説明。以下質疑応答。 B委員 : オリンピック・パラリンピックが開催されるということで、直接観ることはできないがパブリックビューイングなどで子供達が何か関わって、良い刺激を受けてくれたらと思う。一校一國運動は継続されている学校もあると思うが、すごく良い運動なので、今回も学校で取り組んでもらいたい。市の方で把握されていることがあれば教えてほしい。 事務局 : 今回の東京 2020 大会との関わりについて、コミュニティライブサイト
--	---

	とパブリックビューイングを企画しているが、コミュニティライブサイトでは長野オリンピックの閉会式でも踊っていただいた^{スリーツーフン}3-2-1の皆さんがダンスをしていただくことになっている。また、デンマークの事前合宿では昭和小学校の皆さんとの交流を考えている。ただ、時節柄触れ合う交流はできないため、スタンドから練習を見ていただくことを考えている。 C委員：長野市でパブリックビューイングはできるのか。 事務局：パブリックビューイングとコミュニティライブサイトを予定しているが、長野市ではオリンピック・パラリンピックの開催都市であるため、そういったムーブメントを推進していきたいということで開催準備をしている。ただ、コロナ対策を徹底したうえで開催していくので、一例として事前申し込み制、会場内でも3密を回避、隣同士のスペースを1m以上空ける、入場時には体温チェック、手指消毒を徹底する。セントラルスクエアについては食べ物禁止、飲み物については真夏の暑い時期のためやむを得ないとしている。応援の仕方については、パブリックビューイングでも声を出すことは避けていただきたいと考えている。 D委員：地域密着型プロスポーツチームとの連携で、市民の皆さんが知っているという風になるように、信濃毎日新聞のような購読者数が多いものにチームの特集を継続して入れるとか、皆がチームの選手のことを知っているようになるといい。以前、広島に行ったときに、駅に電車が着く度に真っ赤なユニフォームを着た人が駅を埋め尽くして、球場に歩いていく光景があった。そんな風に長野の皆さんがパルセイロカラーやウォリアーズカラーのユニフォームを着て歩いていくような、皆に認知してもらうようなスポーツができたらと思う。 E委員：施策2-2について、南長野運動公園の総合球技場の入場者数について、令和1、2年は台風、コロナで参考にできないが、H27とH30比でいうと、入場者数が32%くらい減ってきている。R2とH27の実績比でいうと、64%くらいが入場者数の実績として減ってきている。これは異常な数値である。1つの原因として、大きな会場でのプロスポーツの観戦者数が球団の成績にすごく影響される。優勝争いをしている成績があると、必然的に応援団も増える。プロスポーツを地場に持つということは、長野市も後方支援していることは承知しているが、直接的に成績が低迷すると入場者数も減る。優勝争いをするレベルだと入場者数が増える。デリケートな部分が数字に出てきている。成果と実績についてはアップ
--	---

	デートしながら、プロスポーツに対する支援も忘れずにしてほしい。 施策の2-3のオリンピックムーブメントの継承の中に、「日本オリンピック委員会と長野市で締結したパートナー都市協定」があるが、これは長野市にとっては大きな財産である。長野冬季オリンピック・パラリンピックが行われたように、ムーブメント上は一校一國運動が脈々と根付いて今も継承されている。パートナー都市協定のオリパラのムーブメントは、いつも互換性を持たせながら相乗的に長野市のスポーツ振興に役立てていくことが必要である。 会 長 : オリンピック開催は日本で3都市しかないため、長野のオリンピックに対するポテンシャルは高い。海外でもオリンピック開催都市はすぐ地名が出る。国際大会を開催するにしても、東京や大阪と比べるのではなく地方都市から比べると大きな力がある。トップレベルのスポーツを観ることがスポーツを醸成する中でも高いのでやっていただきたい。長野県をみても、松本山雅は全国的にも観客動員が大都市に負けないくらいある。長野もカテゴリーや成績はあるが、ポテンシャルはあるはずなので、ぜひ盛り上げていきたい。 B委員 : 長野オリンピックに関連して、今上映中の「ヒノマルソウル」をぜひ観てほしい。感動する。 議事(2) : その他 オブザーバー : 様々な観点からの意見、大変参考になった。県の方でも同様に調査をしていて、1年間に週1回以上スポーツをしている割合は本年度が57.3%、昨年度は57.1%と若干向上している。今日の話にもあったが、日頃から運動習慣を身に付ける方が個々に運動してきたとみている。昨日、東京オリンピックに出場する北海道出身のマウンテンバイクの山本幸平選手が表敬訪問の中で、小さい頃の遊びの一環が自転車に乗ることで、遊びが自分の趣味になる、自転車競技につながると言っていた。資料1にあるが、おそらく子供のうちに何らかのきっかけを作ってやるのが将来的にスポーツを続けていくようになる。また、本年度北信越国民体育大会が長野県で8月に開催される。本大会は三重県で、その予選会が長野県で行われる。更に高校生のインターハイの北信越ブロックが、長野県内で4競技、7月下旬から行われる。応援をよろしく願いたい。 以上
--	--